

# 野菜畑作生産情報 第3号

平成29年6月20日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎小麦の刈取適期は平年並からやや早まる見込みです。適期収穫に努めましょう。  
◎にんにくの収穫期は平年並からやや早まる見込みです。収穫及び乾燥作業の準備を計画的に行い、適期収穫に努めましょう。

## 畑作物

### 1 小麦

#### (1) 生育状況

- ア 開花期は、ネバリゴシで平年より2～7日程度、キタカミコムギで平年より1～4日程度早かった。
- イ 稈長、穂長及び穂数は、ともに平年を下回っている。

表-1 小麦の出穂期、開花期

場 所	年次	ネバリゴシ		キタカミコムギ	
		出穂期 (月日)	開花期 (月日)	出穂期 (月日)	開花期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	5/20	5/24	5/22	5/26
	平年差	(早1日)	(早5日)	(早1日)	(早4日)
	平 年	5/21	5/29	5/23	5/30
	前 年	5/15	5/22	5/17	5/24
野菜研究所 (六戸町)	本 年	5/18	5/26		
	平年差	(早4日)	(早4日)		
	平 年	5/22	5/30		
	前 年	5/16	5/24		
つがる市 (木造町)	本 年	5/15	5/22	5/20	5/29
	平年差	(早5日)	(早7日)	(早1日)	(早1日)
	平 年	5/20	5/29	5/21	5/30
	前 年	5/15	5/24	5/15	5/24
十和田市 (三本木)	本 年	5/21	5/29		
	平年差	(早2日)	(早2日)		
	平 年	5/23	5/31		
	前 年	5/17	5/25		

- 注) ①農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、つがる市(旧木造)、十和田市は生育観測ほの調査成績。以下同様。  
②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去11か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」がH20～H28(24年産(出芽不良)を除く)の8か年、つがる市(旧木造)の「ネバリゴシ」が過去15か年、「キタカミコムギ」が過去21か年、十和田市の「ネバリゴシ」が過去15か年の平均値。以下同様。

表－２ 小麦の生育状況（本年は6月9日現在。平年、前年は6月10日）

場 所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	68.9	6.9	382	83.7	8.6	281
	平年比	(92%)	(88%)	(93%)	(96%)	(100%)	(78%)
	平 年	75.1	7.8	411	86.8	8.6	358
野菜研究所 (六戸町)	前 年	79.5	7.7	412	91.0	9.1	392
	本 年	89.5	8.0	644			
	平年比	(95%)	(95%)	(89%)			
	平 年	94.5	8.4	727			
	前 年	100.6	8.4	658			

## (2) 今後の農作業の留意点

### ア 刈取準備

- (ア) 適期に刈り取りできるようコンバインや乾燥調製施設を準備する。
- (イ) 効率的に収穫作業を行うため、ほ場の排水対策を徹底する。

### イ 適期刈取

- (ア) 刈取適期は7月上旬～中旬頃の見込みである。枯れ上がりの早いほ場が見られるので、収穫が遅れないようにする。
- (イ) 刈り取りは、ほ場毎の成熟状況を確認して、子実水分が30%以下（穂を手でもむと脱粒しやすく、子実が爪で割れにくい状態）になった頃をめどに行う。
- (ウ) 収穫が早すぎると未熟粒が多くなり、遅すぎると黒かび病や穂発芽の発生により品質が低下するので適期に刈り取る。
- (エ) 倒伏や穂発芽した小麦は、仕分けを行い、未熟粒や被害粒が混入しないようにする。
- (オ) 赤かび病は、被害粒の混入割合が1万粒に4粒程度を超えると流通できなくなるので、収穫にあたっては、事前に赤かび病の発生状況を把握し、本病の多発により罹病粒混入が懸念されるほ場では、発生のないほ場と仕分けして、収穫・乾燥を行う。
- (カ) 出穂期以降の積算温度による主な地帯・品種別の刈取適期の見込みは次のとおり。

地 帯 名	ネバリゴシ	キタカミコムギ	ゆきちから
西 北	7/ 3～7/ 8	7/11～7/14	—
中 南	7/ 7～7/12	7/13～7/17	7/10～7/11
東 青	—	7/14～7/17	—
上 北	7/10～7/15	—	—
三 八	7/ 9～7/14	—	—

注) ①出穂期以降の積算温度(ネバリゴシ：830～950℃、キタカミコムギ：900～1,000℃、ゆきちから：840～867℃)を基準に推定した目安で、それぞれ近傍のアメダス（西北は五所川原、中南は黒石、東青は青森、上北は十和田、三八は八戸）から計算した(6/18現在)。

②出穂期は、表－1のほか、中南「ゆきちから」は5/22、東青「キタカミコムギ」は5/23、三八「ネバリゴシ」は5/19とした。

## 2 大豆

### (1) 生育状況

は種作業が、降雨の影響により一部で遅れたところがあるものの、出芽は、おおむね順調である。

表－3 大豆の出芽状況

場 所	年 次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	5/25	6/ 4
	(平年差)	(±0日)	(早1日)
	平 年	5/25	6/ 5
前 年	5/25	6/ 1	
野菜研究所 (六戸町)	本 年	5/16	5/23
	(平年差)	(±0日)	(早3日)
	平 年	5/16	5/26
前 年	5/15	5/22	

注) ①品種：おおすず。

②農林総合研究所、野菜研究所の作況試験ほの調査成績。

③平年値は、農林総合研究所が過去11か年、野菜研究所が過去10か年の平均値。

### (2) 今後の農作業の留意点

ア 中耕・培土は、1回目は本葉2～3枚の展開期に初生葉のつけ根まで、2回目は本葉5～6枚の展開期に第1本葉のつけ根まで土寄せする。

イ アブラムシ類や食葉性害虫の適期防除に努める。

ウ 長雨に備え、明きよを設置するなど排水対策を徹底する。

# 野 菜

## 1 にんにく

### (1) 生育状況

ア 地上部、地下部の生育とも、おおむね平年並から上回っているが、一部、地下部の生育が下回っているところがある。

イ 収穫期は、平年並からやや早まると見込まれる。

ウ 病害虫は、春腐病、さび病の発生が見られる。

表－４ にんにくの生育状況（本年は6月9日現在。平年、前年は6月10日）

場 所	年次	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	茎 径 (mm)	球 径 (mm)	球 重 (g)	りん片 分化期 (月日)	収穫期 (月日)
野菜研究所 (六戸町)	本年	100.4	11.9	19.8	55.6	73.6	4/17	—
	(平年比)	(102%)	(94%)	(99%)	(98%)	(94%)	5日早	(—)
	平年	98.0	12.7	20.0	56.6	78.4	4/22	7/ 4
	前年	104.7	12.9	19.0	64.0	104.0	4/12	6/21
藤 崎 町 (福 島)	本年	89.4	9.0	18.5	52.1	81.7	4/26	—
	(平年比)	(108%)	(108%)	(91%)	(102%)	(129%)	3日早	(—)
	平年	82.4	8.3	20.4	51.0	63.3	4/29	7/ 2
	前年	88.2	8.2	22.8	54.7	73.9	4/24	7/ 1
七 戸 町 (榎 林)	本年	83.2	7.8	20.5	60.5	84.3	4/21	—
	(平年比)	(101%)	(94%)	(99%)	(114%)	(121%)	3日早	(—)
	平年	82.6	8.3	20.8	53.1	69.4	4/24	6/28
	前年	86.0	7.8	22.1	62.0	90.3	4/14	6/17
田 子 町 (田 子)	本年	76.4	8.2	17.9	50.9	58.8	4/18	—
	(平年比)	(94%)	(96%)	(91%)	(92%)	(80%)	6日早	(—)
	平年	81.4	8.5	19.7	55.2	73.3	4/24	6/28
	前年	82.5	8.4	19.5	61.1	89.8	4/15	6/20

注) ①平年：野菜研究所は平成22～28年の7か年の平均値。

藤崎町は平成9～28年の20か年の平均値。

七戸町は平成8～28年（平成25年を除く）の20か年の平均値。

田子町は平成8～28年の21か年の平均値。

②種子：藤崎町は福地ホワイト（13～15g）。

七戸町は白玉王（12～13g）

田子町は白玉王（10～12g）

③葉数：野菜研究所は抽出葉数。

藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

## (2) 今後の農作業の留意点

### ア 病害虫の適期防除

収穫時まで1枚でも多く生葉を残すことが球の肥大促進と割れ玉の発生軽減につながるため、最後まで病害虫防除を徹底する。

葉枯病、黄斑病は、収穫間際に一気に広がることもあるため、早期発見・早期防除に努める。

### イ 適期収穫

収穫遅れとならないよう、盤茎部とりん片の尻部がほぼ水平となる時期に収穫できるよう、早めに試し掘りを行い確認する。

### ウ イモグサレセンチュウの防除対策

被害の拡大を防止するため、機械等がほ場間を移動する際は、洗浄を徹底する。

イモグサレセンチュウの発生が確認されているほ場では、りん球への進入を抑制するため、①早期収穫、②速やかな根切り、③根のほ場外への搬出と適正処分、④速やかに乾燥を行う。

なお、作付ほ場におけるイモグサレセンチュウの発生の有無については、種子用のにんにく20球程度を網袋に入れて1か月程度自然乾燥させた後、りん片の皮をむいて発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認する。異常が見られた時は、指導機関に診断を依頼する。

### エ 適正乾燥

(ア) 乾燥用の暖房機の温度設定は35℃とし、にんにく付近の温度が高くと、煮え症状が発生しやすくなるので、38℃以上にならないよう管理する。

(イ) 乾燥の仕上がりは重量が7割程度に減少した頃を目安に、根部をナイフ等で削り、盤茎部に爪がたたないぐらいの硬さであることを確認する。

(ウ) 建築用水分計を活用する場合は、重量が7割程度に減少した時の盤茎部の水分測定値「10～15%」を乾燥仕上がりを目安とする。ただし、テンパリング乾燥の場合は、盤茎部の水分測定値と全体の水分状態の関係が通常乾燥とは異なることから、重量比による従来の判断方法と併用して総合的に判断する。詳細については指導機関に相談する。

### オ 乾燥仕上がり後の管理

乾燥仕上がり後は、出荷や冷蔵庫への入庫までの期間に、湿気が戻らないようにシート等で湿気を遮断するほか、一時保管中の温度が高温にならないよう適正に管理する。

## 2 ながいも

### (1) 生育状況

植付作業は、平年並に始まり、植付終わりも平年並の見込みである。上北地域では6月上旬にほぼ終了し、三八地域では終盤となっている。

病害虫は、ほとんど発生していない。

### (2) 今後の農作業の留意点

#### ア 追肥

追肥が遅れると収量や品質低下の原因となるので、開始時期は、つる長のほか、試し掘りにより新しいも長も確認して、適期に行う。

表－5 ながいもの追肥方法

追肥開始時期 の目安	早植栽培（頂芽付1年子）	普通栽培	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植付後60日前後（6月下旬～7月上旬）</li> <li>・新しいも長は5cm前後</li> <li>・つる長は150cm 前後</li> </ul>	種いも：子いも	種いも：切いも
			・植付後45～55日頃（7月中旬頃）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・つる長200～220cm（ネット8分目～ネット上部到達）</li> <li>※低温年では、新しいも長を目安とする。</li> </ul>	
追肥の間隔及び回数	・6月下旬から8月上旬の間に、12～14日間隔で3回	・7月中旬から8月中旬の間に、10日程度の間隔で3回	
1回当たりの追肥量	・10a 当たり窒素成分で5kg以内とする。		

※ ウイルスフリー種子を使用した場合や地力が高いほ場に作付けした場合は、1回当たりの追肥量を減らす。また、下位節からの側枝の発生が多く、生育が旺盛な場合は3回目の追肥量を減らす。

#### イ 病害虫の適期防除

葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の早期発見・早期防除に努める。

採種ほ場では、ウイルスの伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

表－6 アブラムシ類、ナガイモコガ及び葉渋病の発生時期

栽培法	植付時期	萌芽期	アブラムシ類		ナガイモコガ	葉渋病
			発生初め	発生盛期	幼虫	発生初め
早植栽培	5/上	5/下	5/下	6/中～下	6/中	7/中
普通栽培	5/下	6/下	6/下	7/中	7/中	8/下

### 3 春夏にんじん（トンネル栽培）

#### （1）生育状況

ア 生育は順調で、地上部は平年を上回っている。地下部は、根長が平年をやや下回ったものの、根径、根重は上回っている。

イ 病虫害は、ほとんど発生していない。

表－7 春夏にんじんの生育状況（本年は6月9日現在。平年、前年は6月10日）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 長 (cm)	根 径 (mm)	根 重 (g)
六 戸 町 (下吉田)	本年 (平年比)	3/13 (3日早)	64.2 (127%)	8.7 (104%)	16.3 (94%)	37.5 (107%)	103.9 (127%)
	平年	3/16	50.7	8.4	17.4	35.0	82.0
	前年	3/6	54.0	9.5	18.0	41.0	120.5

注) ①平年：平成19～28年の10か年の平均値。

②品種：平成19～20年は「ねぶたキャロ」、平成21～28年は「彩誉7」

#### （2）今後の農作業の留意点

葉の半数以上が地際部まで下がった頃に試し掘りを行い、M、L級が中心になった頃に収穫する。

### 4 ばれいしょ

#### （1）生育状況

ア 生育は順調で、草丈は平年を上回っている。

イ 着蕾期は平年より7日早い5月24日、開花期は平年より3日早い6月8日となった。

ウ 病虫害は、ほとんど発生していない。

表－8 ばれいしょの生育状況（本年は6月9日現在。平年、前年は6月10日）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 数 (本)
三 沢 市 (三 沢)	本年 (平年比)	4/4 (5日早)	5/4 (1日早)	5/24 (7日早)	6/8 (3日早)	75.1 (129%)	2.0 (74%)
	平年	4/9	5/5	5/31	6/11	58.3	2.7
	前年	3/21	4/25	5/15	5/28	75.2	2.5

注) ①平年：平成17～19年、平成21～24年、平成26～28年の10か年の平均値。

②萌芽期の平年：平成17年、平成21～24年、平成26～28年の8か年の平均値。

③品種：マークイン

#### （2）今後の農作業の留意点

ア 疫病の予防防除を徹底する。

イ 早出し栽培（マルチ栽培）では6月下旬頃に試し掘りを行い、いもの肥大を確かめて収穫期を決める。また、収穫の5～7日前に茎葉を刈り取るなどして、いもの表皮のコルク化を進めてから収穫する。

ウ 県内の一部でジャガイモシストセンチュウが発生したことがあるので、日中の葉の萎れや下葉の黄化等の症状を発見したら、指導機関に診断を依頼する。

## 5 ごぼう

### (1) 生育状況

- ア は種作業が遅れたため、草丈、葉数は平年を下回っている。
- イ 病害虫は、一部でアブラムシ類が発生している。

表－9 ごぼうの生育状況（本年は6月9日現在。平年、前年は6月10日）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 (三 沢)	本年	5/12	5.8	0.6
	(平年比)	(14日遅)	( 52%)	( 26%)
	平年	4/28	11.1	2.3
	前年	4/24	16.6	2.7

注) ①平年：平成19～28年の10か年の平均値。  
②品種：柳川理想。

### (2) 今後の農作業の留意点

除草、病害虫防除を適期に行う。

## 6 メロン

### (1) 生育状況

- ア トンネル栽培（5月上旬定植）では、5月のは場の乾燥や6月上旬の低温により、主づる長及び主づるの葉数が過去3か年の平均より下回っている。
- イ 着果節位の開花期となっており、開花は順調である。
- ウ 病害虫は、一部でべと病、つる枯病が発生している。

表－10 メロンの生育状況（本年は6月9日現在。平年、前年は6月10日）

場 所	年次	定植期 (月日)	主づる 長 (cm)	主づる の葉数 (枚)
つがる市 (木 造)	本年	5/ 1	135.1	18.9
	(平年比)	(6日早)	( 81%)	( 84%)
	前年	5/ 7	167.0	22.5
	前々年	5/ 7	147.8	19.4

注) ①平年：平成26年から担当農家を変更したため、平成26～28年の3か年の平均値。  
②品種：タカミ（台木：ダブルガードEX）

### (2) 今後の農作業の留意点

- ア トンネルの開閉をこまめに行うなど温度管理を徹底して生育の促進を図る。特に交配期に12℃以下の低温が続くと着果率が劣るので、最低気温15℃前後を目安に管理する。
- イ 交配はミツバチ等訪花昆虫を利用するか人工交配を行う。また、曇雨天が続く場合はホルモン処理を併用する。
- ウ アブラムシ類、アザミウマ類の発生に注意し、適期に防除を行う。



## 7 ねぎ

### (1) 生育状況

- ア 3月下旬定植の生育は順調で、草丈、茎径が平年を上回っている。
- イ 4月下旬定植の生育は、茎径が平年を下回っているものの、草丈は平年並である。
- ウ 病害虫は、一部でべと病が発生している。

表－11 ねぎの生育状況（本年は6月9日現在。平年、前年は6月10日）

場 所	年 次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)
八 戸 市 (是 川)	本年 (平年比)	12/27 (20日早)	3/25 (2日早)	73.1 (104%)	17.9 (115%)
	平年	1/16	3/27	70.4	15.5
	前年	1/10	3/18	81.0	17.3
十 和 田 市 (深沢平)	本年 (平年比)	1/25 (25日早)	4/25 (5日早)	41.3 (101%)	7.0 ( 80%)
	平年	2/19	4/30	40.7	8.7
	前年	2/26	4/20	48.5	9.8

注) ①平年：八戸市は平成17～28年の12か年の平均値。  
 十和田市は平成17～28年の12か年の平均値。  
 ②品種：夏扇パワー

### (2) 今後の農作業の留意点

- ア 草勢の維持に努め、生育に応じて培土や追肥を適期に行う。
- イ 主要病害のべと病が発生しているほ場では、蔓延しないよう防除を徹底する。
- ウ ネギコガ、ネギアザミウマの発生に注意し、適期に防除を行う。

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合には、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報 ([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

【作物名検索】 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

---

連 絡 先 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ  
 県庁内線 5078  
 直 通 017-734-9481

---